

平成 24 年度 第 3 回 JSR 編集委員会議事録

日時：平成 24 年 10 月 26 日(金) 7:15 – 8:30

会場：名古屋国際会議場 会議室 431 北

参加者：

平林 茂担当理事、川口善治委員長、青田洋一委員、赤澤 努委員、笠井裕一委員、寒竹司委員、二階堂琢也委員、長谷 齊委員、長谷川和宏委員、松本守雄委員

(欠席：税田和夫委員、千葉一裕委員)

議事

1. 各学会の第 4 巻分担金の確認：

各学会で確認していただきたい。

2. 第 4 巻広告申し込み状況：

9 / 29 締切りであったが、15 社ほど埋まっていない。広告の申し込みを増やしたい。編集委員会から各団体への広告申し込みの依頼をすることがあるかもしれない。その時には、対応をお願いしたい。

3. 学会員の状況：

JSSR の非会員にも年間 12 号の雑誌を送っている状況である。各団体で非会員に JSSR への入会のプロモーションを行っていくようにしたい。少なくとも医師に関しては、入会を促していきたい。財政にも影響するため、JSSR に入会しない場合には、各学会の特集号のみ送付して、それ以外の特集号は送らないようにするという対策を行う。理事会で決定したい。

4. 各学会の現状：

契約ページ数を 96 頁から 120 頁に増量していただけることとなった。統合誌になってからはじめは、超過頁に学会ごとの差が大きかったが、2012 年になって超過頁の差が少なくなっている。今回頁数が増量になることによって特集号ごとの差を減らしたい。4 巻 1 号から契約頁数が 120 頁になる。

査読状況について：

各学会で査読委員、採択率に大きな差がある。手術手技学会から日本脊椎脊髄病学会抄録号だけが大きく頁数が超過しているが、この超過料金は、各学会からの負担金からも使われているのではないかとの質問があった。これに対しては、今後、契約頁が増えること、JSSR 会員以外には特集号以外は送付しないという対策を行っていく。また、JSR から年間 2000 万円の予算が組まれている。すなわち、JSR と

各学会が支え合っているため、ある程度の負担がやむを得ない。

5. 雑誌 **JSR** の方向性 :

今後の方向性として、**JSR** のクオリティを上げていくために、査読をしっかりと行っていくという方針であることが確認された。案として、ケースレポートを英文で募って、英語論文のクオリティを上げて、オフィシャルジャーナルとして発信できるようにしていくことがあげられた。各特集号に1～2編の英語のケースレポートを掲載するような方法も考えられる。今後、PubMed に載る条件を満たしていくように検討する。

6. オンライン化について :

JSSR の理事会では、現段階では時期尚早であるとの見解だった。オンライン化については、財政の改善が第一の目的であったが、財政としては、**JSSR** 非会員に **JSR** を送付しない、**JSSR** 非会員に入会を促すということを対策としてまず行う。それでも財政的に厳しい場合には、オンライン化を検討していく。オンライン化については、活字の雑誌をなくしてしまって、会員が納得するか、オンライン化会社の決定が問題となる。オンライン化については、今すぐに移行を考えるのではなく、今後の推移をみて検討したい。

7. **COI (Conflict-of-interest Policy)** :

JSR でも、**COI** をしっかり記載していくようにしたい。日整会誌の投稿要領を参考に記載する。第4巻から **COI** の記載のない論文には、記載を促すようにする。1年間を周知期間とし、記載がない著者には、記載してもらうようにする。

8. 業者(**CBR**)との契約 :

9. その他

- ・ **JSR** 査読状況についての報告
- ・ 今後の **JSR** 編集委員会について

次回は、第42回日本脊椎脊髄病学会（沖縄）の会期中に開催予定とする。

以上について合意され、閉会となった。